



"Caregiving like love" has created a "community like family"

We are "grundtvig"



what's 「grundtvig」

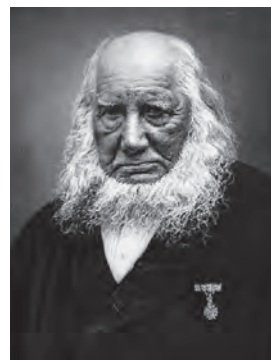
「グルントヴィ」という言葉を知っていますか？

北欧・デンマークが福祉先進国として発展する基礎となった教育思想を説いた「ニコライ・フレデリク・セヴェリン・グルントヴィ」は、今なおデンマークに大きな功績を残した人物として知られています。

東日本大震災の被災地支援を経験した菅原が「困った時に助け合う地域社会を作りたい」「人と人の豊かなつながりを生み出したい」と決心した時に、ふと思い出したのがその名前でした。

一人ひとりが平等でかけがえのない人間として、個人の自由を尊重し、その人の生き方や生活を大切にする考えが、当たり前の世界。これは、私たち「株式会社 ぐるんとびー」が目指す社会の姿でもあります。

湘南大庭から、藤沢市へ、湘南へ、そして全国へ。一人ひとりが自分らしく輝ける社会を実現するために、私たちが新しい福祉のあり方を作っていきます。



N.F.S. Grundtvig
(ニコライ・フレデリク・セヴェリン・グルントヴィ)
デンマークの国民的詩人であり、哲学者、教育者。1840年代に教育改革を行った中心人物。デンマークのオルタナティブ教育の生みの親。

what's 「ぐるんとびー」

ぐるんとびーは、神奈川県藤沢市の湘南大庭で生まれ、「共生社会を現場から作る」ことを目指す福祉法人です。介護保険事業や障害福祉事業等を展開しつつ、制度外の地域活動や学びの場づくりにも力を入れ、子どもから高齢者まで、多様な人々が支え合いながら暮らせる地域の実現に取り組んでいます。

【主な地域への取り組み】

- ・施設内の交流スペースを地域へ開放
(子ども・不登校児の居場所づくり、自治会等の会合にも)
- ・子ども食堂を定期的に開催
- ・健康相談や介護、リハビリの相談窓口
- ・福祉防災拠点として指定（湘南大庭地区防災協議会）



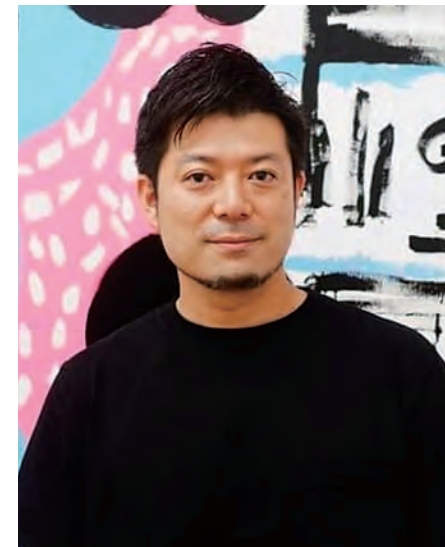
公式サイト



Instagram



Message



菅原 健介

株式会社ぐるんとびー 代表取締役
NPO法人ぐるんとびー 理事長
有限会社ナースケアー代表取締役
全国介護事業者連盟神奈川県支部 理事
認定NPO法人こまちぶらす理事
理学療法士

出身 神奈川県鎌倉市

1992-98年 東海大学附属デンマーク校に留学
2011年 東日本大震災被災地でNPO法人キャンナスの現地統括コーディネーターとして活動
2014年 小規模多機能事業所「絆」の管理者として従事
2015年 株式会社ぐるんとびー創業 小規模多機能事業所を開所
2020年 NPO法人ぐるんとびー設立
2024年 能登半島地震被災地で災害支援チーム代表として福祉避難所を運営

東日本大震災で見た光景が、今の私の原点です。津波で多くの物を失った町に入り、ボランティア団体「キャンナス」の統括コーディネーターとして活動する中で、『支援者である前に“ひとりの人として” できることをできる範囲でやる』という団体理念のもと、暮らしに寄り添おうと動き続けました。

でも、現実には厳しかった。制度には限界がある。本気で支えようとするマニュアルでは足りない。正しさでは届かない。制度を超えた動きは時に反発や反感も生む。それでも、人を想う気持ちの大切さを教えてくれたのは、おばちゃんたちのおせっかいであり、名前のない“あたたかさ”でした。

私は確信しました。地域には「制度」と「おせっかい」両方が必要で、それが噛み合うとき、人は安心して育ち、暮らしを楽しみ、老いることができる。そんな景色を次世代に残したい。その一心で、ぐるんとびーを立ち上げました。

介護・看護の現場には違和感が山ほどありました。「施設に入れば安心」と、地域から切り離される暮らし。「家で最期まで生きたい」「やりたいことがある」という願いが制度の都合でかき消される日常。これでいいのか？と問い続ける中で、「ケア」とは「豊かな人と人のつながりの中にある」と感じました。

ぐるんとびーが目指すのは、共に生きる社会の「地域実装」です。介護だけじゃない。子どもも、障がいも、孤独も、すべてを包む「場」。人の「つながり」。制度のすき間にこぼれる声を拾い上げ、風通しのいい“余白”の中で、誰もがその人らしく生きられる社会。一人ひとりの「生きたい」を、仕組みと関係性の両方で支えたい。

だから、NPOと株式会社、二つの法人と住民としての自治会活動などを使い分けています。制度の中で「できること」と、制度外で「やるべきこと」を両輪で回す。それが、ぐるんとびー。その名前には、両輪を“ぐるぐる回す”ことや、“ぐるぐる悩むこと”など暮らしの中で試行錯誤しながら、それをむしろ楽しんで“びゅーん”と新しい価値を生み出すという想いを込めています。

人生の最期まで「ここで生きたい」と思える地域。そんな風景を本気で作ろうとしています。これは事業じゃない。運動です。そしてこれは、私一人、ぐるんとびーだけでは決して作れない、みんなで育てる未来です。それがあたり前な地域社会と一緒に目指せる仲間と出会えたら嬉しいです。

触れて、知る、感じる

ぐるんとびーでは、毎年、デンマークを訪問する研修を行っています。知識として学ぶだけでなく、直接触れて、話して、感じる。その「経験」があつてこそ、はじめて理解できる。持ち帰ったその感動を日本の社会に合わせて体現することで、社会がまた一歩、素敵になると信じています。



動画で 発信中

日頃の活動やスタッフインタビュー、菅原と共に歩む川島勇我との対談動画などを公開中。リアルな現場を包み隠さずお伝えします。



看護小規模 多機能型居宅介護 ぐるんとびーホーム



アジア太平洋地域高齢者ケア・
イノベーションアワード
最優秀賞受賞

団地×介護・看護 新しいケアの形

藤沢市の湘南大庭にある「ぐるんとびーホーム」は、団地の中という立地を活かし、そこに住む人たちとつながる場所。まさに「スプーンの冷めない距離」で助け合う関係です。ぐるんとびーのスタッフも団地内に暮らし、自治会役員や防災担当も務め、まさに介護と団地が一体となって新しいコミュニティが生まれています。

その人にあった、その人だけの過ごし方

看護小規模多機能ホームぐるんとびー駒寄のサテライトです。看護小規模多機能型居宅介護は、ご利用者さまが可能な限り自立した日常生活を送れるようにサポートするサービスです。事業所への「通い」やご自宅への「訪問」、「泊まり」を組み合わせ、家庭環境と地域住民との交流の下で日常生活の支援や生活リハビリを行います。

こんな方におすすめ

- 認知症、ちょっと人見知り、要介護
- 団地内での看取り率90%以上。施設に入所せず最期まで暮らしたい方
- パーキンソン病など難病でタイムリーなサポートが必要な方



通い（デイサービス）

1日15名まで利用していただくことができる、通所介護サービスです。スタッフが事務所～自宅の送迎をします。健康チェック、食事、入浴を事務所にて行います。朝早くから夜遅くまで、「通常のデイサービスではできない」融通の利いた時間の利用が可能です。

訪問介護・看護

- ご自宅での生活をサポート。
- ① 独居の方等の日常の安否確認。
 - ② 自宅での調理、食事、排せつ等の生活、身体介助の援助。
 - ③ 「通い」、「泊まり」と組み合わせ効果的に利用できます。
 - ④ 看護師による体調観察など

泊まり（ショートステイ）

- 1日3名まで利用の出来る泊まりのサービスです。
- ① 必要に応じて、随時事務所にお泊まりいただけます。
 - ② 夜間も職員が常駐していますので、安心です。
 - ③ 「通い」とバランスよく組み合わせることによって、定期的な泊まりの利用も可能です。

3つのサービスを一体的に

通い、訪問、泊まりの3つのサービスが一体となっているので、顔なじみの職員と家族のようなお付き合い。各種手続きも簡素化されます。月々の家賃＋介護保険料（食費別途）の定額制で安心です。



ご利用までの流れ

詳しくは弊社ケアマネージャーが直接お伝えいたします

お問い合わせ

まずは直接ご連絡ください。お電話でご利用者さまの状況を伺います。体験・見学も随時実施しています。TEL：0466-54-7006（受付時間 平日9：00～17：00）



看護小規模 多機能型居宅介護 ぐるんとびー駒寄



充実した医療ケアで 安心をサポート

「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」のサービスを一体化して、一人ひとりに合わせた柔軟な支援ができる看護師を中心としたトータルケアの事業所です。2020年4月に、ぐるんとびーから歩いて3分のシャルマンコーポ1階に開設しました。

寝たきりなんていない。
一人一人のやりたいを最期まで大切にします

サービスを組み合わせ、医療依存度の高い方でも、慣れ親しんだ地域と家で身近な人に囲まれて暮らし続けることをサポートします。

医療ニーズの高い方でも安心

専門的・特化した技術を持つ訪問介護事業のスタッフと連携し、手厚い医療ケアを実施しています。

こんな方におすすめ

- 点滴や経管栄養など
柔軟な医療サポートの必要な方
- 難病・癌末期・医療ストーマ・胃ろう等の方



柔軟にサービスを変更できて安心

ご利用者さまやご家族の状況が変わった場合も看多機のケアマネージャーが、通い、泊まり、訪問看護・介護を臨機応変に組み合わせ提供できます。急な泊まりや、夜間の訪問看護・介護に対応できるため、ご利用者さま・ご家族にとって安心です。



利用料は月定額制です。

看多機の利用は、要介護度に応じた月定額制です。利用頻度や回数による増減はなく、介護費用が膨らみすぎないので安心です（ただし泊まりや食事に関する費用などは別途）。



要介護3の Aさんの場合

週間スケジュール
通い3日・宿泊1回
介護負担
割合1割

料金の例

— 泊
2,000円
＋
介護保険料
約30,000円
＋
食費

一か月約6万円で
自宅での生活を
サポートいたします

お問い合わせ

まずは直接ご連絡ください。お電話でご利用者さまの状況を伺います。体験・見学も随時実施しています。TEL：0466-51-7275（受付時間 平日9：00～17：00）





ぐるんとびー

訪問看護ステーション

こんな方におすすめ

- ご自宅で看護やリハビリが必要な方
- 難病・癌末期・慢性疾患等の方



医療・介護保険の費用

・医療保険

70歳以上75歳未満→月額2割
後期高齢者医療の対象者→月額1割

・介護保険

月額の1割・2割・3割

自費サービス

マンツーマンサポート

あなたの「やりたい」を理学療法士などの専門職がサポートします。
外食や旅行、ゴルフやプール、お孫さんの結婚式など、なんでもご相談ください！

訪問エリア

藤沢市全域・茅ヶ崎市・鎌倉市の一部までお伺いします。

あなたの生活、 「したい」「やりたい」を 看護・リハビリ・介護・地域と ともに実現します

介護事業所でも、やりたいことを我慢することはありません。「温泉に行きたい」「海を見たい」「ボウリングでリフレッシュしたい」。ぐるんとびーでは、そんなご希望にこたえてきました。これまでの決まりきった制度を超える。そんな想いでご利用者様と日々を共にしています。

医療保険内サービス

営業日時
月～金（祝日除く）
8:30～17:30

訪問リハビリテーション

ご利用者さまが住み慣れたご自宅での生活を継続できるよう一人一人に合わせたリハビリテーションを行います。

訪問看護

健康状態や病状の観察・相談や
精神科訪問看護、ターミナルケアも対応しております。

定期巡回・随時対応型訪問看護も導入



介護福祉士が定期的に居宅を訪問し、洗濯や調理などの家事をはじめ、入浴、排せつ等の介護を行うサービスです。定額制で、デイサービスとの併用も可能です。
※2025年11月事業開始



お問い合わせ

訪問看護・リハビリをご希望の場合、まずは当ステーションにご連絡ください。介護保険サービスをすでにご利用の方、これからご利用される方は、担当のケアマネージャー様に「当ステーションの利用をご希望」であることをお伝え頂き、ご相談ください。また、現在医療機関へ受診中の方、入院中の方は、ご担当の医師へご相談ください。
TEL:0466-54-7099（受付時間 平日 8:30～17:30）



ぐるんとびー

ケアプランセンター

介護で困ったときの 一番最初の相談窓口です

『ちょっと聞いて欲しいのよ』
そんな何げない会話をしながら、気軽にふらっと立ち寄り相談できる『まちのケアプランセンター』を湘南大庭につくりたい。そんな想いから、私たちは看護小規模多機能や小規模多機能と併設してケアプランセンターをたちあげました。

ケアプランセンターでは、ケアマネージャーがご自宅でその人らしく生活する為に必要な介護サービス等を調整し、“こうありたい”と思う生活に近づけるよう支援を行います。介護保険の申請代行から、他の施設・看護・介護サービス事業者との連絡・調整等を行います。主任ケアマネージャーを中心に併設する訪問看護ステーションの看護師、理学療法士、作業療法士とともに悩み、お一人お一人が“希望を持って暮らし続ける”ために必要なプランを作成するお手伝いをさせていただきます。自費のリハビリなども含めた積極的なリハビリテーション型のご相談、あるいはパーキンソン病や頸髄損傷、癌など医療依存度の高い方もお気軽にご相談ください。また、すでにケアマネージャーがいるがプランを見直したい。遠方よりご家族を受け入れたいなどのご相談も介護保険外でお受けすることも可能です。

誰もがふらっと相談できるよろず相談所

- リハビリを受けたい。
- お風呂に入るのを手伝ってほしい。
- 自宅に閉じこもりの生活になっているので外出の機会を作りたい。
- 高齢の母（父）の介護で悩んでいる。
- 歩行が不安定になってきたので、自宅廊下に手摺をつけたい。
- 車椅子やベッドを借りたい。
- 介護サービスを利用したいが使い方が分からない
- 医療依存度が高く、主治医などから自宅で暮らすのは難しいと言われてしまいショックを受けている方



こんな方におすすめ

- 初めての介護や看護でお困りの方
- 地域で暮らし続けたい方
- 一緒に悩んでくれるケアマネージャーを探している方



要介護1～5の認定を受けている方が対象となります。また、要支援1～2の認定を受けている方も地域包括支援センターより依頼があれば委託を受けて計画を作成しています。



お問い合わせ

まずは直接ご連絡ください。お電話でご利用者さまの状況を伺います。体験・見学も随時実施しています。
TEL:0466-21-9091（受付時間 平日8:30～17:30）





放課後等デイサービス HERO's HOUSE「ヒーローの家」

誰もが誰かのHEROだ！子どもの可能性を「開く」場所

運営する訪問看護ステーションをきっかけに、様々な保護者と出会うなかで「子どもを安心して預けられる場所」の不足を耳にしてきました。何かあった時に頼れる繋がりがないと、家庭内で抱え込んでしまう現状があります。きょうだい児とゆっくり過ごす時間を持つためにも、平日はもちろん、土日祝日も安心して預けられる場所を提供したい。その想いで放課後等デイサービスHERO's HOUSEは誕生しました。

今までにない、とびきりの安心

・医療的ケアの安心

看護師が常駐し、訪問看護ステーションも隣接。「普段子どもを見てくれる看護師さんがいる」という安心のサポート

・学びの安心

地域に開けた放課後等デイサービスとして、積極的に地域へ飛びだして行きます。体験し、感動することで心を育みます

・未来を見据える安心

「もっと良くするために」を常に追求し、将来的には緊急時の宿泊対応など、親御さんのニーズに真剣に向き合います



感動と喜びから学び、育つ

「障がいがあるから…」と、子どもの可能性を閉ざしてはいませんか？障がいや病気を抱えていても、感動したり幸せを感じたりする気持ちは同じです。多彩な活動からたくさんの感動と喜びを分かち合える場所。ただの預かり場所なら、作らない。「ぐるんとびー」だからこそその放課後等デイサービスです。



無限に広がる「遊び場」を 楽しみつくせ！

ぐるんとびーがこれまで取り組んできた様々な事業で生まれた絆を活用し、他にはない多彩なプログラムを行います。サッカー元日本代表などによる運動プログラムをはじめ、学習支援、アート、野外活動など活動の幅を広げていきます。子ども、保護者、地域、みんなが「心の殻」を破って可能性を広げる居場所がここにあります。



子ども×高齢者＝駄菓子屋

放課後デイの建物に隣接する駄菓子屋は、地域の高齢者と子どもたちのつながる場。お店のお手伝いを通して社会とつながり、他者との関わりのおかげで自分にできることを見つけ、体験から学びます。

HERO's HOUSE プログラム一例

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1週目	1	2 マッハを越えろ！ 草滑り レース！	3 プロサッカー選手直伝！ 諒さん プログラム -サッカー基礎編-	4 イッソーと 遊ぼう！ -一球入魂！野球編-	5 Dr.Higeの 科学実験！	6 みんなでやってみよう！ お菓子作り	7 ちょっと遠出！ みんなで ピクニック
2週目	8	9 イッソーと 遊ぼう！ -ドッジボール編-	10 いつでも サバイバル！ -ドッジボール編-	11 まち歩き！ 英単語 フィールドワーク	12 オリジナル楽器で音楽！ ヒーローズ コロッセオ	13 諒さん プログラム！ -フィジカルトレーニング-	14 生き物ミック！ 海・磯探検！
3週目	15	16 世界に一つだけ！ 廃材スタンプ 作り	17 いつでも サバイバル！ 保存食を食べよう！	18 イッソーと 遊ぼう！ -どすこい！相撲編-	19 プロサッカー選手直伝！ 諒さん プログラム -ボールフィーリング編-	20 楽器を作ってみよう！ 音で 遊ぼう！	21 みんなで健勝き 公園 ウォークラリー！
4週目	22	23 イッソーと 遊ぼう！ -選抜必須！バレーボール編-	24 育てた野菜で作れ！ ヒーローズ カレー！	25 プロサッカー選手直伝！ 諒さん プログラム -ゲーム編-	26 周りに聞かせるのかな？ 地図作りで 地域探索！	27 Dr.Higeの 科学実験！	28 ダンボールで遊び出せ！ ドキドキ 迷路作り！
5週目	29	30 Dr.Hige の科学実験！					

※お子様の体調、ご機嫌、天候等によって予定は変動・中止となりますのでご承知ください。

利用者の標準的な 1日の流れと支援内容

時 間	スケジュール
9:00	受け入れ開始
10:00	体調チェック 個別プログラムの実施
11:30	食事支度
12:00	昼食
13:00	休憩
	順次帰宅
14:00	受け入れ開始
15:00	体調チェック 個々のプログラム実施
17:00	順次帰宅

児童発達支援

放課後等
デイサービス



施設管理者・看護師 福田 明子

2023年に株式会社ぐるんとびーへ入職し、現在は訪問看護ステーションと放課後等デイサービス「HERO's HOUSE」の管理者を務めています。これまで17年以上、赤ちゃんから高齢者、癌末期や難病の方など、さまざまな方の「その人らしい暮らし」に寄り添ってきました。ぐるんとびー参画のきっかけは、医療的ケア児や障がいのある子どもたちが地域で自然に笑い、育ち、過ごせる居場所をつくりたいという想いからです。「人は人によって癒される」。その信念のもと、垣根のないつながりを地域に育み、子どもも大人も“まんなか”にいられるケアを、ぐるんとびーらしく愛とおせっかいを原動力に届けていきたいと思います。

お問い合わせ

放課後等デイサービスについてのご相談や見学会は随時開催しておりますので、いつでもお問い合わせください。
☎0466-21-9070 藤沢市石川693-7 9:00~17:00





「ぐるんとびー」の横顔

なぜNPO法人なのか

ぐるんとびーには、二つの顔があります。介護事業を柱とした「株式会社ぐるんとびー」、そして、誰もが小さな幸せを感じられる地域社会を目指す「NPO法人ぐるんとびー」。同じ名前でも違う法人の形を取るのには、「できること」が違うから。地域を一つの家族にするために、代表の菅原にとって、どちらも必要だったから。

2011年、日本列島に大きな爪痕を残した東日本大震災の被災地で、菅原はボランティアナースのコーディネーターとして活動しました。日夜助けを求める声が絶え間なく続く現地での経験から、地域に根ざした介護事業所を設立したいという想いを強く抱きました。

そして2015年、UR都市機構パークサイド駒寄団地の一室で、小規模多機能型居宅介護事業「ぐるんとびー駒寄」を開設し、株式会社としてのぐるんとびーが産声をあげました。

菅原が当初目指していたのは、NPOとしてのぐるんとびーでした。しかし、「NPO法人の設立には思っていたよりも時間が必要で、真っ先に動き出せるのが株式会社としてのぐるんとびーだった」と振り返ります。

2017年には訪問看護ステーションも誕生し、菅原と同じ思いを抱く仲間が集い、活動は水面の輪のように広がっていききました。

ただ預かり、閉じ込めておくような介護施設ではなく、「人生の最期まで、好きな人たちと好きな場所で思うように過ごしたい」という人としてごく当たり前の願いを実現するために、介護職や看護職、リハビリテーション職が、専門知識を生かしてちょっとした手助けをする。そんなぐるんとびーのスタイルは、アジア太平洋地域の「高齢者ケア・イノベーション・アワード」最優秀賞や、「第1回アジア健康長寿イノベーション賞」国内最優秀賞と準大賞

など、先進的な事業として世界からも評価をいただきました。

2020年、これまでの株式会社での活動を基に、菅原の念願でもあったNPO法人としてのぐるんとびーがスタートしました。

利益を重視する「経営」という観点からかけ離れた、「本当の福祉」のために。たとえ誰かの不都合になっても、目の前の誰かを今救うために。湘南大庭を拠点に、キャンドルナイトや夏祭り、防災キャンプなど次々に新しい交流の場を生み出していきました。

菅原の目指す社会福祉の形としてNPO法人を立ち上げた今、株式会社としての法人の重要性はより高まっています。

「株式会社では借りることができない公共施設が、NPO法人なら借りることができることもあります。そして、活動の資金は必ず必要になるので、そのためにも、基盤となる介護事業は大切。メリット・デメリット、できること・できないことをクリアしていくために、車の両輪のような欠かせない存在」

ひとつのサービスに特化し、実績のあがる事業を強化すれば、利益もあがるし社会から評価もされやすい。でも、それはぐるんとびーの目指す姿ではありません。いろんな人が暮らすことで、さまざまなことが起きる。そんな、「みんなで暮らしている」ということが、かけがえのない小さな幸せのある日常を作る。

「制度だから」「決まりだから」という理由であきらめたくはない。

地域を一つの家族にするために、菅原の描く未来は、二つの法人という両輪に乗って、着実に前へと進んでゆきます。



地域の高齢者と 子どもたちの 「駄菓子屋くれよん」

毎週月・木曜日 午後3時～

社会に触れる経験が、自信につながる

毎週月曜日と木曜日、ぐるんとびー「まちかどオフィス」の庭には、駄菓子屋が開店します。株式会社ぐるんとびーが所有するトレーラーハウスを活用したこの駄菓子屋では、地域のじいじ、ばあばがお店を切り盛り。お手伝いの子もたちとワイワイとにぎやかな空間が広がります。

2024年から始まったこのお店は、ぐるんとびーの施設に遊びに来ていた小学生たちが中心となって始めました。メンバーには、現在、不登校の子どもや、障がいを持っている子、元気が余っている子などさまざま。みんなが協力して、「どうしたら良いお店になるのか」を真剣に考え、挑戦しています。

そしてそれを温かく見守るのが、NPO法人ぐるんとびーのスタッフ。ちょっぴり早めの社会勉強で、子どもたちは学校とは違った学びをたくさん得ています。



駄菓子屋くれよん

神奈川県藤沢市石川693-6
ぐるんとびーまちかどオフィス

弾ける飛沫と笑顔

『SPLASH FESTIVAL 湘南大庭 夏祭り』

2024年 2025年8月

ぐるんとびーが開催する二大ビックイベントの1つである『SPLASH FESTIVAL 湘南大庭 夏祭り』。汗が止まらない夏の暑さをむしろ楽しんじゃおう!と、ぐるんとびー事業所の目の前にある二番構公園で、毎年開催しています。

イベントの目玉の一つである水鉄砲で戦うスプラッシュエリアでは、年齢不問。子どもから大人まで、思いっきり走り回って水を打ち合います。青空の下に水しぶきと満面の笑みがたくさん弾けます。



地域を盛り上げたい! そんな熱い想いの仲間たち



『地域を一つの家族に』そして『毎日に感動できるゆたかな繋がりを創る』という私たちの活動で、「困った時はお互い様」といえる人が増え、地域を元気にしていきます。

イベントのフィナーレは恒例の盆踊り!子どもも大人も、おじいちゃんもおばあちゃんも、一人また一人と踊りの輪の中に加わっていき、気づけば大きな輪に。踊り方がわからない人も見様見真似で楽しめる空間で、顔も名前も知らなかった人々が少しずつ繋がり、気づけば会場は一つに!



イベントでは、キッチンカーによる飲食ブースが大盛況。さらに格闘技体験やダブルダッチ、BMX、人間縄跳びや巨大BOXを使ったパフォーマンスなど洗練された技が飛び出し大歓声。今年も暑さに負けない盛り上がりを見せます。

2022年～3月

3.11への祈りキャンドルナイト

東日本大震災を忘れてはいけない。
そして未来へ「想い」を紡いでいきたい。

全国に大きな爪痕を残した東日本大震災。人それぞれの3.11があり、今なお振り返ることがつらい方もいらっしゃると思います。

ただ、決して忘れてはいけない。人々の繋がりが希薄になってしまった今だからこそ、慌ただしい日常を振り返り、当たり前前の日常に感謝しよう。その気持ちを少しでも多くの人と共有するために、出てきた答えは「灯：あかり」でした。

3.11やコロナ禍、世界で続く戦争で失われた多くの命を悼み、少しでも穏やかに過ごせるように灯りを灯し、それぞれの平和を祈りたい。悲しい出来事を未来へ紡ぐのではなく、人が集い、あたたまるきっかけにする。そして、湘南大庭から育っていった子どもたち、それぞれの事情でここにはいない人達にも、このイベントで「おかえり」と言える場所であり続けたい。この湘南大庭から未来へ紡ぎたいという想いを形にしたプロジェクトです。



困難を知り、絆を深める 防災キャンプ

東日本大震災の被災地支援チーム現地コーディネーターとしてぐるんとびー代表の菅原健介が見た光景は、不安や悲しみが溢れ、大切な人を亡くし自分を責める人たちの姿でした。そんな状況の中で被災者の心を救ったのは、人と人とのつながり。『平時からの繋がりが、困ったときに助け合える地域を作る』と痛感し、子どもから大人までが支えあい、小さな幸せを感じる事が出来る地域社会を作りたいと、活動を始めました。

その一方で、万が一の被災に備え、具体的で実践的なスキルの習得が必要と考えました。災害時には、通常では計り知れない環境と精神的ストレスが重なります。日本のように地震や台風などの自然災害が多い国では、生き抜くための知識や技術（スキル）が非常に重要だと思います。災害時の生存率を上げるため、困難な状況でも「自分でできる」という自信を持つことに焦点をあて、防災食の炊き出しや停電、体育館での宿泊を実際に体験する「防災キャンプ」を定期的に開催しています。



2024年～3月



月に1度の「スポトレ」 あふれる笑顔と歓声

毎月第3金曜日の放課後、駒寄小学校のグラウンドや近隣の公園では未就学児から小学6年生まで、地域の子どもたちが集まってきます。

みんなと一緒に走ったり、サッカーや野球をしたり。そこには、解放感と興奮の笑顔がカラフルな花のように咲きます。子どもたちの身体の成長に詳しい理学療法士と一緒に、ジャンルを問わず、様々なスポーツを安全に楽しく経験することができる教室「スポトレ」は、2018年から始まりました。

スポトレを始めたそもそもの経緯は、不登校の子ども達や孤立している子ども達が集まれる場を「家と学校以外の場所で作る」ことでした。最初は数人で始まったスポトレも、今では毎週20人程が集まるほどに成長しました。そしてこの取り組みを参考に、全国各地でスポトレが行われています。元気があふれる子どもたちにとって、思いきり体を動かすことは何よりの楽しみ。今日も校庭には、笑顔と歓声があふれています。



2018年～毎月第3金曜日



全国で災害支援 悲しみから、目を背けない

2024年1月1日、石川県の能登半島を激しい揺れが襲いました。この能登半島地震では、道路やライフラインが寸断され、多くの人が避難生活を余儀なくされました。

NPO法人ぐるんとびーでは、まだアスファルトの裂けた道路を乗り越えながら現地入りし、訪問ボランティアアナース団体キャンパスと現地の医療法人社団オレンジさんの3団体で災害支援チームを構成し、被災直後の3日には福祉避難所を立ち上げ、運営にあたりました。

水や食料はもとより、介護用品や衛生面での物資などあらゆる物が不足するなかでの避難生活は言葉では言い表せない過酷な状況でした。

しかし、この経験は、いずれ訪れる大災害への教訓ともなりました。災害の過酷さを目の当たりにするたびに、地域を一つの家族にする大切さを実感します。

私たちはこれからも、被災地を支え続けていきます。



コミュニティケアの可能性

「団地×介護・看護」

昭和40年代、高度経済成長期に建設が広がった「団地」。国土交通省の資料によれば、全国には約2900の住宅団地（5ha以上）があるそうです。住民の高齢化や空き家化などの課題があげられていますが、居室が集中し、生活に必要な要素も揃うこの場所こそ、「未来の暮らしを作る可能性の塊」と菅原は話します。

こだわりの戸建て住宅やデザイナーズマンションのような派手さはないけれど、地域の景色に長く溶け込む団地は、その多くが生活用品の店舗などと隣接し、暮らしの拠点となっています。生活に必要なものが揃い、住まい同士が近い。これがこれからの社会の介護や、助け合う地域づくりの大きなメリットになるのです。

「新しいものを作ろうと思ったら、建設だけでも長い時間がかかり、莫大な費用もかかる。今、既にあるものをリノベーションできるなら、経済的なコストを大幅に抑えられる。あとはそこでどのように運用していくか」

暮らしているのは自分だけではない。だからこそ、生活のなかではさまざまなトラブルも起きる。それを認め合い、許し合い、受け入れていく。そんなふわっとした支えあいの空気感こそが、今の社会には求められていると思うから。

区切られた部屋に閉じこもり、ただ過ごすだけの時間には輝きを感じない。ぐるんとびーが目指すのは、あくまでその人がその人らしく生きることのできる時間。そして、誰もが誰かを思いやり、小さな幸せを毎日実感できる暮らし。

団地を大きな一つの家族にできれば、「子どもを少しの時間みてほしい」「電球が切れちゃった」という些細な困りごとでもスッと手を差し伸べることができる。「助け合いの延長でできることは、本当はすごくたくさんある」

ぐるんとびーは、藤沢市湘南大庭の団地「湘南ライフタウンパークサイド駒寄」の一室に開設した小規模多機能型居宅介護事業所から始まりました。

団地で暮らす大切さと、そこに住む人たちの温かさを知るからこそ、未来を描ける。私たちには、そんな自信が満ちています。



ぐるんとびーの価値と未来

「ぐるんとびー」への想いについて、取締役CDOとして創設期から共に歩む川島勇我に、社会を変革へと導く可能性について聞く。

川島 勇我

伊藤忠インタラクティブ株式会社
鎌倉ボウサイダー制作委員会 代表/発起人
株式会社ぐるんとびー 取締役/CDO
一般社団法人Publitech デザインマネジメント
共創かまくらPJ/鎌倉市 政策デザインサポート
地域共生社会研究会（厚労省）事務局&デザインマネジメント

「おせっかい増幅装置」

ぐるんとびーは現代社会で不足している「気にかけてくれる人のぬくもり」を福祉の中心におき、介護現場や地域に増やし続けている活動です。あえて「おせっかい」と表現するのは私たちの行為が、時には煩わしいとか、ほっといて欲しいと避けられるなど、良い反応ばかりではないことを知っているから。それでもその一つ一つの想いと行動が寂しかったり、困ったり、苦悩し絶望する人たちを支え、人生捨てたものではないな！と元気づける力を生むことを実践で証明してきた。効率化が求められる昨今だからこそ、不器用に見える「おせっかい」を増幅させる覚悟は、みんなで幸せな未来を創るために決定的に重要な要素だと確信しています。

「ハンタイキキヘキ」

世の中の当たり前を疑うことが出来る人材が育っています。突飛な意見や主張は、専門職の中では「変な人」と評価され、軽んじられたり非難されたりする現場を見聞きしています。ぐるんとびーではそんな時こそ「新たな選択肢」の萌芽だと受け取り、議論する努力を続けています。人と違ったことを感じたり、考えたり出来る力は私たちひとりひとりの可能性。それはご利用者も、働く私たちも、地域で関わる全ての人々の財産です。一見、「変な人」と捉えられる人たちが、生き活きと働き、介護サービスを受け取り、地域で生活する。私たちが目指す未来は、その人がその人らしく生きる信念を捻じ曲げなくても「平気」な社会をみんなで準備することです。



川島（左）と菅原 2020年デンマークにて

「もうひとつの家族になる」

地域を大きな家族に！をスローガンに活動を続けています。この言葉には「家族性の醸成＝身内に愛されるような関係性が幸せを感じる要因のひとつ」という想いが込められています。家族との良好な信頼関係が安心感を生み、自己肯定感を高めると信じています。ぐるんとびーではケアに関わる方々の家族関係の改善や、住まい方の環境設定にも気を配ります。それこそ家族のように…ケアすることに深く真摯に関わる中で自然発生的に生まれたのが「もうひとつの家族になる」という姿勢でした。働くスタッフと家族のような関係構築によって笑顔を取り戻したり、コミュニケーションが円滑化したり、和やかな最期を迎えたりが、これまで沢山生まれてきました。

未来へ

「もうひとつの家族になる」という姿勢を成果と呼ぶのは私たちのエゴです。それでも結果として家族みたいになってしまった、共に働く仲間が家族みたいに関わりたいと願ってしまう。その想いが溢れていることがぐるんとびーの社会的価値だと言えます。そしてそれは、これから描く未来への希望です。私たちの社会はより多様化し、より複雑化します。これまでの家族の概念も壊れるかもしれません。それでも私たちは「ほどほどに幸せ」に生きたい。その時に家族のように人と向き合える姿勢が地域や社会を支え、より豊かな人のつながりを構築する基盤になります。誰もが誰かの大切な人として存在し、お互いに個性を尊重し合う地域社会をみんなで描いていきます。

川島はぐるんとびーの経営ビジョン、ブランディング、事業計画、教育方針やプログラムなど事業と組織のグランドデザインを担当しています



ぐるんとびーロゴデザイン



ぐるんとびー指針デザイン



メタバース×ぐるんとびーの未来

ぐるんとびーのチャレンジ 新規プロジェクト始めます！

鎌倉市
笛田
2026年春～

ぐるんと ビレッジ

鎌倉市笛田に、看護小規模多機能型居宅介護とグループホームの「ぐるんとビレッジ」が誕生します。湘南大庭を飛び出し、鎌倉市に生まれるぐるんとびーの新拠点。地域で暮らし続けたい高齢者の方やご家族だけでなく、医療従事者などからも期待の声をいただいています。スタッフ一同ワクワクを胸に、設立準備中です！



もっと知る「ぐるんとびー」

湘南
大庭
2025年11月～

定期巡回

「泊まりは不要」「もっと短時間で」「見守りだけでもいい」そんなニーズに応えきれない場面も出てきました。そこで新たに始めるのが『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』です。介護福祉士が定期的にお伺いし、介護サービスを行います。選択肢を増やして柔軟にサポートします。



挑戦には、新しい仲間が必要だ

ぐるんとびーでは、毎年新しいプロジェクトや企画が次々と生まれ、常に挑戦し続けています。福祉、介護、介護、児童支援、まちづくりなど、多彩な活動には多彩な力が必要です。私たちと一緒に、新しい社会を実現してみませんか？採用についてのお問い合わせは、お気軽に。

- ケアマネージャー
- 理学療法士
- 看護師
- 事務スタッフなど

☎0466-54-7006



公式サイト

株式会社 ぐるんとびー NPO法人 ぐるんとびー

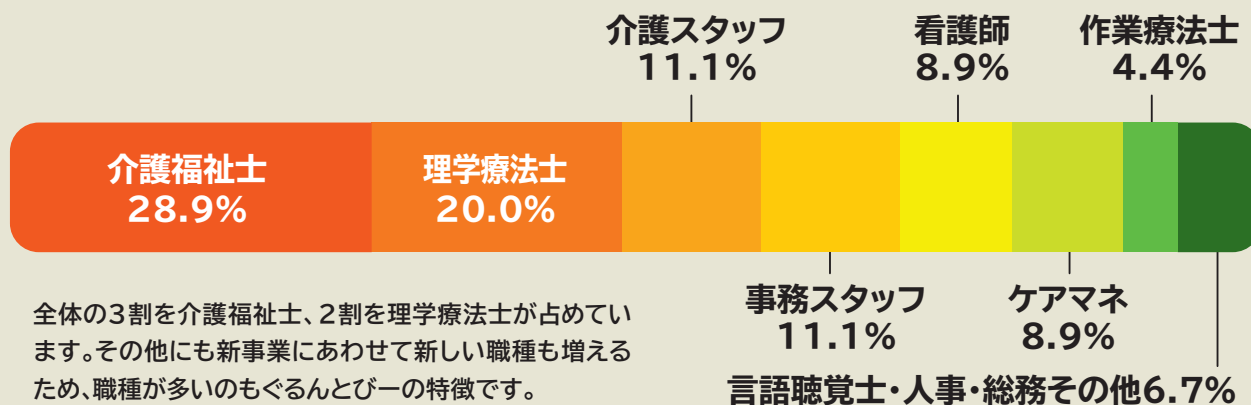
法人概要 Disclosure

〈2025年6月1日〉

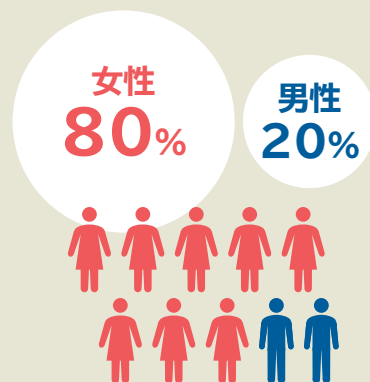


ぐるんとびー白書

職種の割合

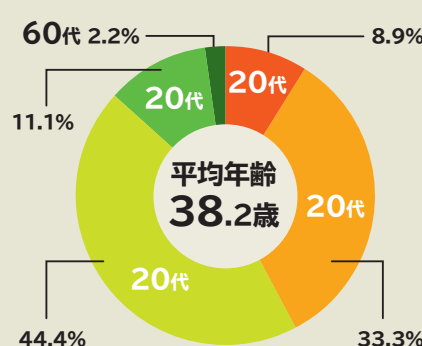


性別



ぐるんとびーは、多くの素敵な女性とイケてる男性の力で支えられています。男女の比率は介護業界ならではの割合です。

年齢



20代の若手から40～50代のお子さんのいる方まで幅広い世代が活躍しています。世代の垣根を越えて、意見を交換できるのがぐるんとびーです。

採用時期

中途採用95% 新卒採用5%
現在、中途採用のスタッフがメインで活躍しています。新事業展開に向けて、新卒スタッフを30%まで上げる予定。やる気のある若者を積極採用中です。

雇用形態

正社員57.8% パート・アルバイト42.2%
正社員とパート・アルバイトの割合はおよそ3:2。地域のボランティアさんや事業委託など、様々な人たちに支えられています。

スタッフの本音

大事なことを相談できる仲間がいる？

いる84.4%
いない15.6%

大事な事のレベルは人それぞれだけど、8割以上がいると回答しました

ぐるんとびーの仕事を通して成長できていると感じる？

「とても感じる」もしくは「感じる」71.1%

成長を実感すると、働くことが楽しくなりますね

仕事を通して感動の涙を流したことがある？

「何度もある」または「ある」51.1%

日々の困りごとから「お看取り」まで、様々なお困りごとの解決の連続がぐるんとびーの仕事。「ありがとう」と言われる喜びは、なにものにも代えがたいものがあります。

私たちの愛する「ぐるんとびー」 取締役・執行役員メッセージ



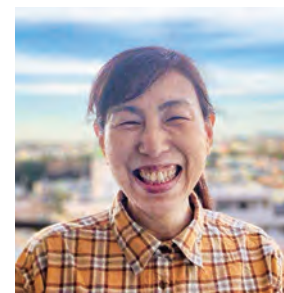
菅原 有紀子さん
取締役

「あなたの強みは何ですか？」「苦手なことは？」「どんな時に心地よく感じ、どんなことで不安や不快になりますか？」こうした問いかけに、意外と自分自身が一番答えられないものです。ぐるんとびーでは、こうした問いをととても大切にしています。なぜなら、私たちが日々向き合っているのは「人」だからです。人を理解し、ケアすることは決して簡単ではありません。だからこそ、まずは一番身近な「自分」をよく知ることが大切だと考えています。得意なことも不得意なこともすべてを受け入れ、そんな自分を好きになり、でこぼこした自分自身に自信を持つこと。ときには苦しく感じることもあるでしょう。でも、ぐるんとびーには支え合える仲間がいます。そして、人生の大先輩であるご高齢の方々や、まっすぐなまなざしで元気をくれる子どもたちもいます。ぐるんとびーは、知らなかった自分に出会い、考え、語り合い、そして自分を成長させていく場所です。



石川 和子さん
執行役員
看護師 ケアマネージャー

ぐるんとびーは、私にとって愛してやまない場所です。日々の揺らぎの中で、笑ったり、迷ったり、立ち止まったり、そのすべてが、この場所の命となっています。スタッフはもちろん、ここに関わるすべての人々が、ぐるんとびーの風景をつくり上げてくれています。何気ない声、ふとした眼差し、そっと差し伸べられた手のひら、そのどれもが、大切な光です。地域をひとつの家族に、一つひとつのつながりと一人ひとりの存在が輝くような、温かな場所であり続けられるよう努めてまいります。



神谷 直美さん
執行役員 介護福祉士

「この人が家で暮らし続けるには何が必要なんだろう？」そんな問いを常に持ちながら日々のケアに向き合っています。まずはその人を知ること。丁寧に関係を築くことで、本当に必要な支えが見えてくると感じています。創立時からぐるんとびーの一員として、“その人らしい暮らし”を支えるケアを仲間たちと実践してきました。これからも、一人ひとりに合ったケアを探し続けていきたいと思っています。

「私、ぐるんとびーじゃないと働けないんです」



井口 健一郎さん
執行役員
社会福祉法人理事
厚生労働省社会保障審議会委員

僕は元々小学校の教員をしており、その後小田原福祉会潤生園理事、施設長をしております。代表の菅原健介とは誕生日1日違い、ともに思春期をそれぞれデンマークとカナダで過ごしており、共有する部分がとても多く、親しみがありました。僕がぐるんとびーと関わるきっかけは一緒に能登半島沖地震の被災地を支援した時でした。ぐるんとびースタッフの姿にふれ、全力で支援する姿に心打たれました。ぐるんとびーの宝は間違いなくこのアツい志をもった「人」です。この会社は日本なくてはならない会社だと深く実感しました。執行役員として、ぐるんとびーの素晴らしさを日本中に伝えていきたいと思っています。



地域と私たちの「これから」の話をしよう

Grundtving Next Action 2030

社会において孤立する人の家族性を拡張する 絶望が持続しない(希望が無くならない)社会を創る

絶望を抱くのは、どんな時でしょうか。逃げ場がない、相談できる人も居ない、選択肢がない、安心できない、誰も助けてくれない…。そんな希望が見いだせなくなるのは、個人の問題だけではないと思います。地域社会や社会保障だけでなく、生まれた環境や保護者のせいだけでもない。

本人の気持ちの変化や努力だけではどうにもできない状況というものは、いつ、誰にでも起こりうる。そんな時に、安堵できる「逃げ場(居場所)」があり、絶望から脱出するチャンスの選択肢を増やし続ける。そして、本気であなたを気にかけ、理解する人との出逢いを増やすこと、そんな社会を創ることが大切だと思っています。

家族が補い繋ぐべき社会的役割が多すぎる

これまでの社会では、この絶望を抱かないための環境づくりを、「家族」というシステムに依存してきました。専門の知識も経験も足りない家族に、責任を押し付けてきたともいえるでしょう。そしてその社会の疲れが今、様々な場所でひずみとなって現れているのです。

ぐるんとびーは、現代家族が担えない扶養、介護、保

護の役割を代替し、身体的、精神的、文化的、社会的な尊厳を守ってきました。

この10年の活動を経て、私たちはようやく本当に向き合うべき社会の課題と、求める社会の姿が見えてきた、スタートラインの段階だと思っています。

孤立する人の家族性を拡張する 「地域をひとつの家族に」

疲れた時、困った時、心と休める止まり木のような場所と、顔なじみの誰かがそばに居る環境。でもそれは、見えにくいだけで、今すでに誰の周りにもあるもの。「家族の役割」を、地域でシェアして補い合う。だから、ぐるんとびーは、社会の中で孤立する人の家族性を拡張する。その仕組みを世の中に広めたい。そのために、地域をひとつの家族に。



株式会社ぐるんとびー お問い合わせ

株式会社ぐるんとびー

所在地 本社(看護小規模多機能型居宅介護ぐるんとびーホーム内)
〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭5682-6 パークサイド駒寄3-612
TEL:0466-54-7006

看護小規模多機能型居宅介護ぐるんとびーホーム

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭5682-6 パークサイド駒寄3-612
TEL:0466-54-7006



看護小規模多機能型居宅介護ぐるんとびー駒寄

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭5529-8
シャルマンコーポ湘南ライフタウン1階
TEL:0466-51-7275

ぐるんとびー訪問看護ステーション

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川693-6
ぐるんとびーまちかどオフィス内
TEL:0466-54-7099



ぐるんとびーケアプランセンター

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川693-6
ぐるんとびーまちかどオフィス内
TEL:0466-21-9091

放課後等デイサービスHERO'sHOUSE「ヒーローの家」

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川693-7
TEL:0466-21-9070

NPO法人ぐるんとびー

TEL:0466-47-7764



地域を元気に広がる絆

ぐるんとびーは2025年から、神奈川県社会人1部リーグ所属のサッカー клуб「鎌倉インターナショナルFC(鎌倉インテル)」のサポートをしています。地域を元気にするために、これからも新たな縁と絆を広げていきます。





株式会社 ぐるんとびー
NPO法人 ぐるんとびー

神奈川県藤沢市大庭5682-6 パークサイド駒寄3-612

☎0466-54-7006

<https://www.grundtvig.co.jp/>